

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-65917

(P2002-65917A)

(43) 公開日 平成14年3月5日(2002.3.5)

(51) Int.Cl.

A 6 3 B 57/00

識別記号

F I

A 6 3 B 57/00

キーワード(参考)

A

審査請求 有 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2001-198286(P2001-198286)

(22) 出願日 平成13年6月29日(2001.6.29)

(31) 優先権主張番号 2000-23353

(32) 優先日 平成12年8月17日(2000.8.17)

(33) 優先権主張国 韓国 (K R)

(71) 出願人 501261562

アイシーエフ インコーポレイテッド

大韓民国ソウル特別市瑞草区瑞草洞1338-21

(72) 発明者 キョウンスー, チョイ

大韓民国 ソウル セオチョーク セオ
チョードン #1338-21

(74) 代理人 100073128

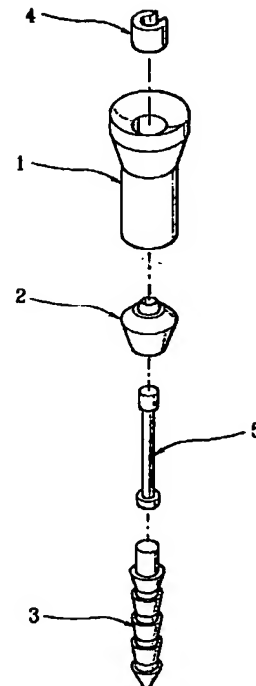
弁理士 菅原 一郎

(54) 【発明の名称】 可撓性ゴルフティー

(57) 【要約】

【課題】ゴルフのティーショットの際の感覚を損なうことなく、しかもクラブヘッドで強打された場合にも破壊したり抜地飛去することのないゴルフティーを提供する。

【解決手段】同軸上に組み合わされた上部材1と中部材2と下部材3とをもってゴルフティーの主要部を構成し、上部材と中部材の軸孔に強ゴム条5を挿入してその上端を上方に突出させ、ゴム条の突出上端にはワッシャー4を固定して上部材と中部材とを連結し、中部材の軸孔には下部材の上端を挿入接着する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 同軸上に組み合わされた上部材(1)と中部材(2)と下部材(3)とを含んでなり、上部材と中部材の軸孔には強ゴム条(5)が挿入されてその上端を上方に突出しており、ゴム条の突出上端にはワッシャー(4)が固定されて上部材と中部材とを連結しており、中部材の軸孔には下部材の上端が挿入接着されていることを特徴とする可撓性ゴルフティー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は可撓性ゴルフティーに関するものであり、さらに詳しくはクラブヘッドに強打されても破壊または抜地飛去(ティーグラウンドから抜けて飛び去ること)しないゴルフティーに関するものである。

【0002】

【従来技術】一般にゴルフのティーショットに際しては木製またはプラスチック製のゴルフティーが用いられる。従来のゴルフティーは強打により破壊されたりティーグラウンドから抜地して空中に飛去し易い。この問題を解決すべく上下の部材からゴルフティーを構成し、上部材はゴム製とし下部材はプラスチック製としたものが従来から使われている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】この型式のものはボールを載せる部分を厚いゴムで形成している故に、破壊し易いという問題は解決している。しかし強打により抜地飛去するという欠点はそのままであるので、飛去したゴルフティーを探さなければならないという面倒がある。またボールを載せる部分が厚いゴムで形成されているが故に、ティーショットの際の感覚が損なわれるという欠点がある。

【0004】かかる従来技術の現状に鑑みてこの発明の目的は、ティーショットの際の感覚を損なうことなく、しかもクラブヘッドで強打された場合にも破壊したり抜地飛去することのないゴルフティーを提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】同軸上に組み合わされた上部材と中部材と下部材とをもってゴルフティーの主要部を構成し、上部材と中部材の軸孔に強ゴム条を挿入してその上端を上方に突出させ、ゴム条の突出上端にはワ

ッシャーを固定して上部材と中部材とを連結し、中部材の軸孔には下部材の上端を挿入接着する。

【0006】

【作用】クラブヘッドの強打により衝撃が加わると、ゴルフティーは上部材と中部材の連結部分で曲折してゴム条が弾性変形するが、ゴム条があるので両部材が分離することはない。衝撃が消えるとゴム条の弾性回復により両部材は原形に復する。

【0007】

10 【実施例】この発明のゴルフティーは3個の別体の上中下の部材からなるもので、上部材はウレタンから、中部材はナイロンから、下部材はポリカーボネート(PC)から形成されている。

【0008】図1にはこれらの部材が分離状態で示されており、ゴルフティーを組み立てるに際しては、まず強いゴムからなるゴム条5を中部材の貫通軸孔に、その下端のフランジが中部材の底部に当接するまで、挿入する。ついでその組合せ状態で中部材を上部材の貫通軸孔に、その上部分が上部材の内側下部分に当接するまで、挿入する。このとき上部材の軸孔から上部に突出したゴム条の上フランジにワッシャー4を固定して、三者が分離しないようにする。

【0009】さらに下部材の上部分に接着剤を施してから、中部材の軸孔に挿入して両者を接着させる。最後にワッシャー4から上方に突出するゴム条5の部分を切除して、ゴルフボールを載せられるようにする。

【0010】

【発明の効果】クラブヘッドの強打により衝撃が加わってもゴム条の弾性変形によりそのエネルギーが吸収されるので、ゴルフティーが破壊されることはなく、抜地飛去することもない。

【図面の簡単な説明】

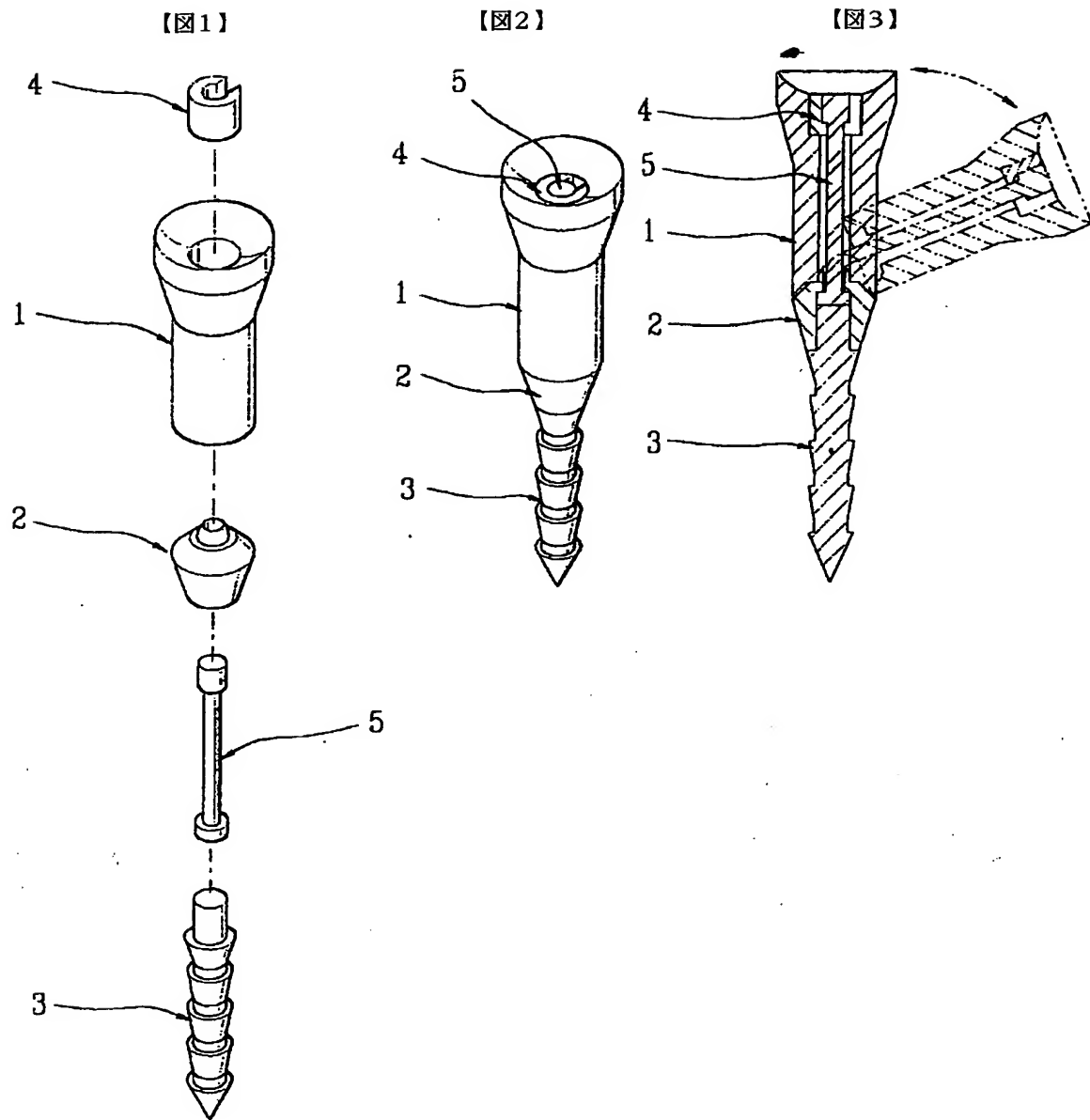
【図1】この発明のゴルフティーを分離状態で示す斜視図である。

【図2】同じく組合せ状態で示す斜視図である。

【図3】同じく強打時の曲折状態を示す断面側面図である。

【符号の説明】

1 上部材
2 中部材
3 下部材
4 ワッシャー
5 ゴム条



PAT-NO: JP02002065917A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002065917 A
TITLE: FLEXIBLE GOLF TEE
PUBN-DATE: March 5, 2002

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
CHOI, KYOUNG-SOO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ICF INC	N/A

APPL-NO: JP2001198286

APPL-DATE: June 29, 2001

PRIORITY-DATA: 2000200023353 (August 17, 2000)

INT-CL (IPC): A63B057/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a golf tee which keeps it from being broken or being slipped away off the ground even when struck strongly by a club head without impairing touch in the tee shot, of the golf.

SOLUTION: The main part of the golf tee is constituted of an upper member 1, a middle member 2 and a lower member 3 combined on the same axis. A strong rubber strip 5 is inserted into shaft holes of the upper and middle members with the upper end thereof protruding upward. A washer 4 is fixed at the protruded upper end of the rubber strip to link the upper and middle members. The upper end of the lower member is inserted and bonded into the shaft hole of

the middle member.

COPYRIGHT: (C) 2002, JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-65917

(P2002-65917A)

(43) 公開日 平成14年3月5日(2002.3.5)

(51) Int.Cl.⁷

A 6 3 B 57/00

識別記号

F I

A 6 3 B 57/00

テーマコード(参考)

A

審査請求 有 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2001-198286(P2001-198286)

(22) 出願日 平成13年6月29日(2001.6.29)

(31) 優先権主張番号 2 0 0 0 - 2 3 3 5 3

(32) 優先日 平成12年8月17日(2000.8.17)

(33) 優先権主張国 韓国 (K R)

(71) 出願人 501261562

アイシーエフ インコーポレイテッド

大韓民国ソウル特別市瑞草区瑞草洞1338-21

(72) 発明者 キョウンースー, チョイ

大韓民国 ソウル セオチョーク セオ
チョードン #1338-21

(74) 代理人 100073128

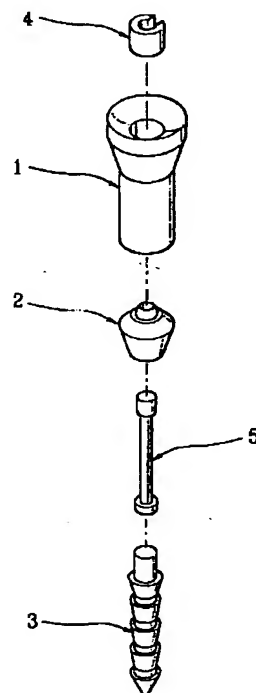
弁理士 菅原 一郎

(54) 【発明の名称】 可撓性ゴルフティー

(57) 【要約】

【課題】ゴルフのティーショットの際の感覚を損なうことなく、しかもクラブヘッドで強打された場合にも破壊したり抜地飛去することのないゴルフティーを提供する。

【解決手段】同軸上に組み合わされた上部材1と中部材2と下部材3とをもってゴルフティーの主要部を構成し、上部材と中部材の軸孔に強ゴム条5を挿入してその上端を上方に突出させ、ゴム条の突出上端にはワッシャー4を固定して上部材と中部材とを連結し、中部材の軸孔には下部材の上端を挿入接着する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 同軸上に組み合わせられた上部材(1)と中部材(2)と下部材(3)とを含んでなり、上部材と中部材の軸孔には強ゴム条(5)が挿入されてその上端を上方に突出しており、ゴム条の突出上端にはワッシャー(4)が固定されて上部材と中部材とを連結しており、中部材の軸孔には下部材の上端が挿入接着されていることを特徴とする可撓性ゴルフティー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は可撓性ゴルフティーに関するものであり、さらに詳しくはクラブヘッドに強打されても破壊または抜地飛去(ティーグラウンドから抜けて飛び去ること)しないゴルフティーに関するものである。

【0002】

【従来技術】一般にゴルフのティーショットに際しては木製またはプラスチック製のゴルフティーが用いられる。従来のゴルフティーは強打により破壊されたりティーグラウンドから抜地して空中に飛去し易い。この問題を解決すべく上下の部材からゴルフティーを構成し、上部材はゴム製とし下部材はプラスチック製としたものが従来から使われている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】この型式のものはボールを載せる部分を厚いゴムで形成している故に、破壊し易いという問題は解決している。しかし強打により抜地飛去するという欠点はそのままであるので、飛去したゴルフティーを探さなければならないという面倒がある。またボールを載せる部分が厚いゴムで形成されているが故に、ティーショットの際の感覚が損なわれるという欠点がある。

【0004】かかる従来技術の現状に鑑みてこの発明の目的は、ティーショットの際の感覚を損なうことなく、しかもクラブヘッドで強打された場合にも破壊したり抜地飛去することのないゴルフティーを提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】同軸上に組み合わせられた上部材と中部材と下部材とをもってゴルフティーの主要部を構成し、上部材と中部材の軸孔に強ゴム条を挿入してその上端を上方に突出させ、ゴム条の突出上端にはワッ

ッシャーを固定して上部材と中部材とを連結し、中部材の軸孔には下部材の上端を挿入接着する。

【0006】

【作用】クラブヘッドの強打により衝撃が加わると、ゴルフティーは上部材と中部材の連結部分で曲折してゴム条が弾性変形するが、ゴム条があるので両部材が分離することはない。衝撃が消えるとゴム条の弾性回復により両部材は原形に復する。

【0007】

10 【実施例】この発明のゴルフティーは3個の別体の上中下の部材からなるもので、上部材はウレタンから、中部材はナイロンから、下部材はポリカーボネート(PC)から形成されている。

【0008】図1にはこれらの部材が分離状態で示されており、ゴルフティーを組み立てるに際しては、まず強いゴムからなるゴム条5を中部材の貫通軸孔に、その下端のフランジが中部材の底部に当接するまで、挿入する。ついでその組合せ状態で中部材を上部材の貫通軸孔に、その上部分が上部材の内側下部分に当接するまで、挿入する。このとき上部材の軸孔から上部に突出したゴム条の上フランジにワッシャー4を固定して、三者が分離しないようにする。

【0009】さらに下部材の上部分に接着剤を施してから、中部材の軸孔に挿入して両者を接着させる。最後にワッシャー4から上方に突出するゴム条5の部分を切除して、ゴルフボールを載せられるようにする。

【0010】

【発明の効果】クラブヘッドの強打により衝撃が加わってもゴム条の弾性変形によりそのエネルギーが吸収されるので、ゴルフティーが破壊されることはなく、抜地飛去することもない。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明のゴルフティーを分離状態で示す斜視図である。

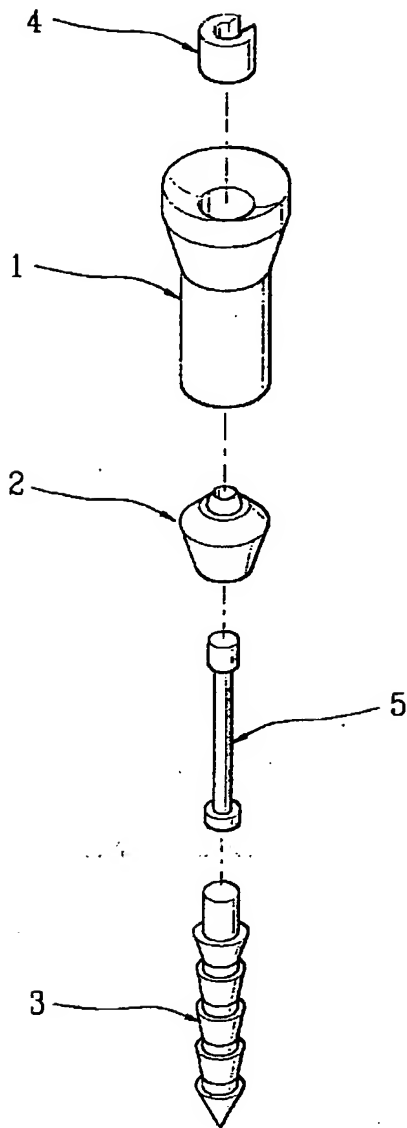
【図2】同じく組合せ状態で示す斜視図である。

【図3】同じく強打時の曲折状態を示す断面側面図である。

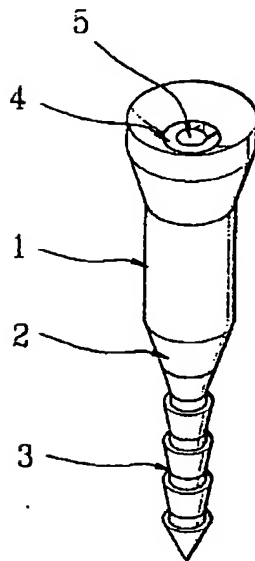
【符号の説明】

- 1 上部材
- 2 中部材
- 3 下部材
- 5 ゴム条

【図1】



【図2】



【図3】

